預言者伝（スィーラ）

第 12 巻

ハンダク（塹壕）の戦い

部族連合：塹壕、忍耐、そしてアッラーの御助け



HJ CHE ALIM HJ CHE HARON
AK (KELANTAN)
quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）

第 12 巻

ハンダク（塹壕）の戦い

部族連合：塹壕、忍耐、そしてアッラーの御助け — クルアーンと真正なハディースに基づいて

لَّقَدْ كَانَ لَكُمْ فِي رَسُولِ ٱللَّهِ أُسْوَةٌ حَسَنَةٌ لِّمَن كَانَ يَرْجُواْ ٱللَّهَ وَٱلْيَوْمَ ٱلْآخِرَ وَذَكَرَ ٱللَّهَ كَثِيرًا

「本当にアッラーの使徒は、アッラーと終末の日を熱望する者、アッラーを多く唱念する者にとって、立派な模範であった。」

部族連合章 33:21

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

謝辞

部族連合をただ独りで打ち破り、心臓が喉もとまで届いたときにしもべを助けられたアッラーに讃えあれ。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たちに祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

『預言者伝（スィーラ）』第 12 巻は、ハンダク（塹壕）の戦いを語ります。飢えた手で掘られた塹壕、教友とともに土を運ばれたアッラーの使徒 ﷺ、一万の兵の同盟、そしてアッラーが遣わされた風です。この知識が「役に立つ知識（イルムン・ユンタファウ・ビヒ）」となりますように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には、人間も動物も描かれていません。描かれているのは、**一本の長い塹壕**です。寒い夕暮れに**石の多い平原**を横切って掘られ、岸に沿って**盛り土**が続き、背後には**岩山**がそびえています。空では**嵐の風**が砂ぼこりを巻き上げ、厚い灰色の雲を集めています。その切れ間からかすかな**三日月**がのぞき、地平線には淡い光が見えます。

その塹壕は、アッラーの使徒 ﷺ と教友たちが飢えた手で掘ったアル＝ハンダクです。背後の山は、使徒の陣営があったサルウ山を思い起こさせます。嵐の風は、アッラーが部族連合軍に遣わされた風を象徴しています。「われはかれらに対し大風と、目に見えぬ軍勢を遣わした」（部族連合章 33:9）。雲間の三日月はフザイファが派遣された寒い夜を、地平線の光は包囲の後の安堵を表しています。

下部の紺色の帯は、**細い金色の線**に縁取られ、著者名が記される場所です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

ハンダクの戦い — はじめに

1. 部族連合の同盟 — 部族連合章 33:10

2. 塹壕を掘る提案 — スィーラ書

3. 寒い朝の塹壕掘り — 『サヒーフ・ブハーリー』2834

4. アッラーの使徒ﷺのお腹を覆った土ぼこり — 『サヒーフ・ブハーリー』4104

5. 砂に変わった大きな岩 — 『サヒーフ・ブハーリー』4101

6. ジャービルのもてなし — 『サヒーフ・ブハーリー』4102

7. 部族連合の到着 — 部族連合章 33:10

8. 心臓は喉もとまで — 部族連合章 33:11

9. 偽信者たちの言い訳 — 部族連合章 33:12–13

10. 「これはアッラーが約束されたもの」 — 部族連合章 33:22

11. クライザ族とハワーリー、アッ＝ズバイル — 『サヒーフ・ブハーリー』2846

12. アリーとアムル・ブン・アブド・ウッド — スィーラ書

13. 逃した礼拝 — 『サヒーフ・ブハーリー』4111

14. サアド・ブン・ムアーズの負傷 — 『サヒーフ・ブハーリー』4122

15. ヌアイム・ブン・マスウード — 『サヒーフ・ブハーリー』3030

16. 部族連合への祈り — 『サヒーフ・ブハーリー』2933

17. フザイファの夜 — 『サヒーフ・ムスリム』1788

18. 風と目に見えぬ軍勢 — 部族連合章 33:9

19. アッラーただ独りがかれらを打ち破られた — 『サヒーフ・ブハーリー』4114

20. 「今度はわれらがかれらを攻める」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4109

21. 立派な模範 — 部族連合章 33:21

22. ジブリールはまだ武器を置いていない — 『サヒーフ・ブハーリー』4117

23. ハンダクの物語の典拠 — 図；表

24. ハンダクについての部族連合章の節 — 部族連合章 33:9–27；『サヒーフ・ブハーリー』4784

25. 女性、若者、負傷者 — 『サヒーフ・ブハーリー』2664、463

26. ハンダクの人物とガタファーン族との交渉 — 表；スィーラ書

27. 今日のハンダクの戦場 — 地理の表；『アル＝アダブ・アル＝ムフラド』704

28. ハンダクの戦いの年表 — 表

29. ハンダクの戦いについてのよくある質問 — 12 の質問

30. 教訓と結び

参考文献

支援と寄付

色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

ハンダクの戦い

『預言者伝』第 11 巻は、クライシュ族が破ったバドルでの再会の約束で終わりました。しかし**ヒジュラ暦 5 年シャウワール月**、クライシュ族は再びやって来ます — 今度は単独ではありません。かれらは約一万の兵からなる**アラブ諸部族の同盟**（アル＝アフザーブ）を率いて来ました。ムスリム軍の三倍の兵力で、マディーナを永久に滅ぼそうとしたのです。

ムスリムたちは、バドルやウフドのように開けた戦場へ出て行きませんでした。その代わりに**塹壕を掘った**のです — アラブ人がそれまで見たことのないものでした。この物語は**部族連合章**（33:9–27）に記され、真正なハディースがその瞬間を伝えています。アッラーの使徒 ﷺ がお腹が土ぼこりで覆われるまで土を運ばれたこと、飢えのためにお腹に石を巻かれたこと、そしてアッラーの風が来た非常に寒い夜のことです。

ハンダクの戦いの年表（ヒジュラ暦5年シャウワール月）

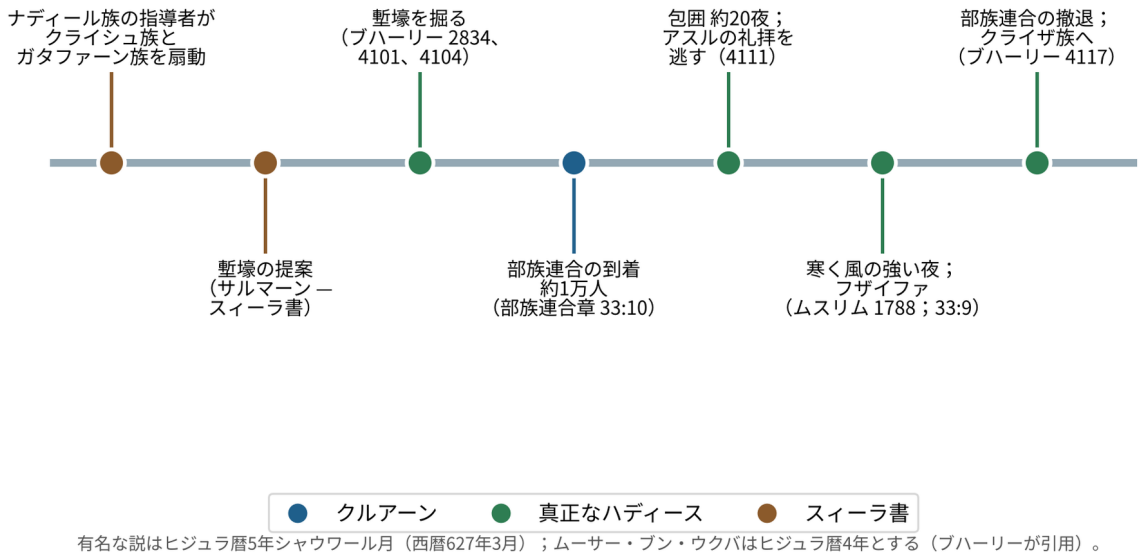


図 1：ハンダクの戦いの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

部族連合の同盟

マディーナから追放された後（第 11 巻）、ハイバルにいた**ナディール族**の指導者たちは黙っていませんでした。スィーラ書によると、**フヤイ・ブン・アフタブ**とユダヤ教徒の有力者たちはマッカへ行き、クライシュ族にもう一度マディーナと戦うよう扇動しました。その後ナジュドの**ガタファーン族**のもとへ行き、ハイバルのナツメヤシの収穫の半分を約束しました。

集団	役割（スィーラ書）
クライシュ族とその同盟者	アブー・スフヤーンが率いる；南西から来た
ガタファーン族（ファザーラ、ムッラ、アシュジャウ）	ウヤイナ・ブン・ヒスンが率いる；東（ナジュド）から来た
スライム族とアサド族	同盟した諸部族
ナディール族の指導者	扇動者・同盟の計画者

クルアーンは、かれらが四方から来たことを描いています：「**見るがいい。かれらは、あなたがたの上からまた下から襲って来た。その時目は霞み、心臓は喉もとまで届いて、あなたがたはアッラーに就いて、色々と（悪い）想像をした。**」『タフスィール・イブン・カスィール』33:10。

イブン・カスィールは、「上から」とは東から来た**ガタファーン族**、「下から」とは西から来た**クライシュ族**を指すと伝えています。教訓：虚偽は、利害が違っても真理と戦うためなら**団結**します。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

塹壕を掘る提案

部族連合軍の来襲の知らせがマディーナに届くと、アッラーの使徒 ﷺ は、いつものように教友たちと**協議（シューラー）**されました。敵はムスリム軍の三倍で、開けた戦場で迎え撃つのは非常に危険でした。

スィーラの注：サルマーン・アル＝ファーリスィーの提案

スィーラ書によると、**サルマーン・アル＝ファーリスィー** رضي الله عنه はこう提案しました。「アッラーの使徒よ、ペルシャでは包囲されると、私たちは周りに塹壕を掘ります。」アッラーの使徒 ﷺ はこの提案を受け入れられ、塹壕はマディーナの開けた**北側**に掘られました。他の部分は**溶岩地帯（ハッラ）**、家々、ナツメヤシ園によって守られていました。

スィーラ書はまた、十人ごとに**四十キュビット（腕尺）**を掘る分担が与えられたと伝えています。この詳細はスィーラの伝承では有名ですが、『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』には見られません。

参照：

イブン・サアド『タバカート』；アル＝ワーキディー『マガーズィー』；Wikipedia「Battle of the Trench」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_the_Trench

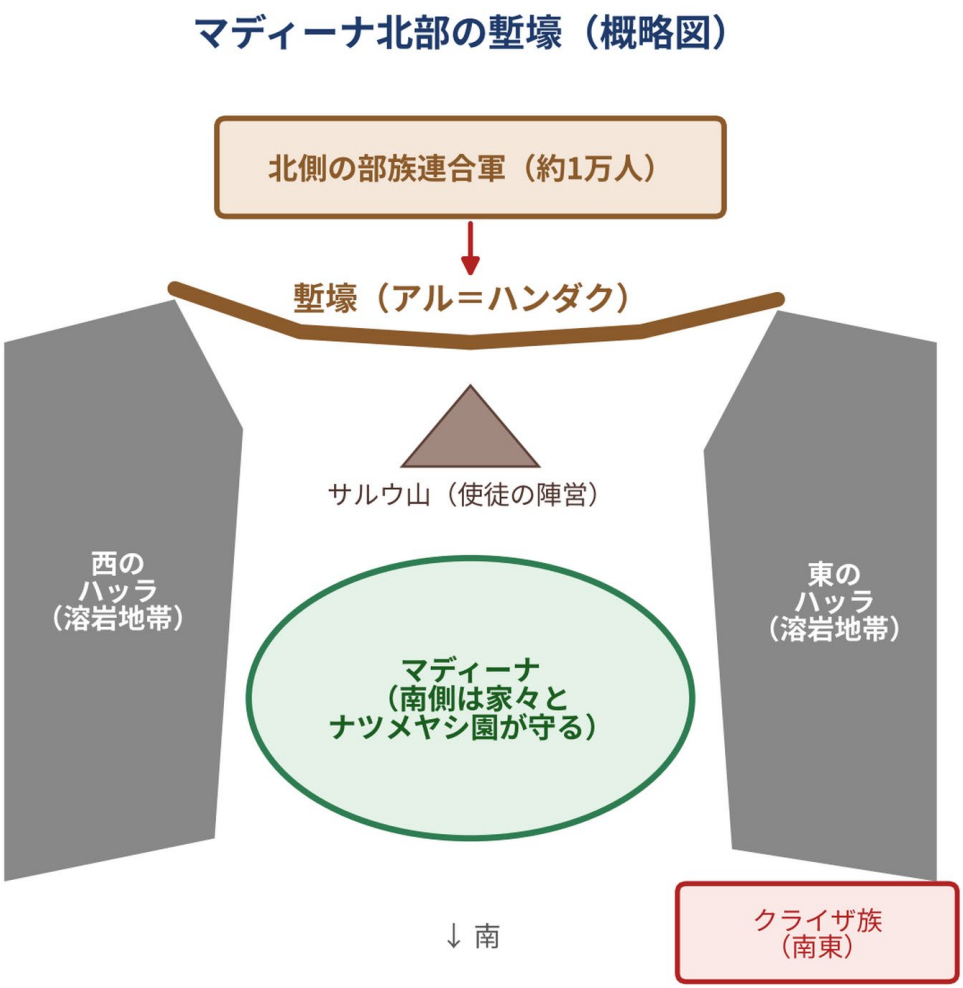


図 2：マディーナ北部の塹壕の位置（概略図）。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は、他の民族の慣習から来たものであっても**良い考え**を受け入れられました。知恵は、シャリーアに反しない限り、どこからでも取り入れることができます。

寒い朝の塹壕掘り

簡素な道具で、寒さと空腹の中、数キロメートルにわたる塹壕を掘るのは非常に重い仕事でした。アナス رضى الله عنه はその様子をこう描いています：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 2834 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدٍ، حَدَّثَنَا مُعَاوِيَةُ بْنُ عَمْرٍو، حَدَّثَنَا أَبُو إِسْحَاقَ، عَنْ حُمَيْدٍ، قَالَ سَمِعْتُ أَنَسًا ـ رضى الله عنه ـ يَقُولُ خَرَجَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم إِلَى الْخَنْدَقِ فَإِذَا الْمُهَاجِرُونَ وَالأَنْصَارُ يَحْفِرُونَ فِي غَدَاةٍ بَارِدَةٍ، فَلَمْ يَكُنْ لَهُمْ عَبِيدٌ يَعْمَلُونَ ذَلِكَ لَهُمْ، فَلَمَّا رَأَى مَا بِهِمْ مِنَ النَّصَبِ وَالْجُوعِ قَالَ اللَّهُمَّ إِنَّ الْعَيْشَ عَيْشُ الآخِرَهْ فَاغْفِرْ لِلأَنْصَارِ وَالْمُهَاجِرَهْ. فَقَالُوا مُجِيبِينَ لَهُ نَحْنُ الَّذِينَ بَايَعُوا مُحَمَّدًا عَلَى الْجِهَادِ مَا بَقِينَا أَبَدًا

訳：

アナス رضى الله عنه は言った：**アッラーの使徒 ﷺ が塹壕へ出て行かれると、ムハージルーンとアンサールが非常に寒い朝に掘っているのをご覧になった。かれらには代わりにそれをしてくれる奴隷がいなかったのである。かれらの疲れと飢えをご覧になると、使徒は言われた。「アッラーよ、まことに（真の）生活は来世の生活です。どうかアンサールとムハージルーンをお赦しください。」** かれらは答えた。**「私たちこそ、生きている限りジハードのためにムハンマドに忠誠を誓った者たちです。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド ← ムアーウィヤ・ブン・アムル ← アブー・イスハーク（アル＝ファザーリー） ← フマイド ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、塹壕を掘る章、ハディース第 2834 番；第 4099 番にも。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2834

共に働く指導者

アッラーの使徒 ﷺ は遠くから眺めておられただけではありません。教友たちとともに**自ら掘り、土を運ばれた**のです（第 4 章）。そして使徒の祈りは、かれらの目を現世の苦労から真の**来世の生活**へと向けさせました。

教友たちの答えは、疲れの中にあっても**高い士気**を示しています。かれらはアッラーの使徒 ﷺ への忠誠の誓いを自らに思い起こさせたのです。教訓：指導者と従う者が**ともに**担えば重い仕事も軽くなり、その目標は来世です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

お腹を覆った土ぼこり ― アッラーの使徒ﷺ

アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه は、アッラーの使徒ﷺが塹壕で働かれるのを自ら目撃しました：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4104 番

حَدَّثَنَا مُسْلِمُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنِ الْبَرَاءِ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ كَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَنْقُلُ التُّرَابَ يَوْمَ الْخَنْدَقِ حَتَّى أَغْمَرَ بَطْنَهُ أَوِ اغْبَرَّ بَطْنُهُ يَقُولُ وَاللَّهِ لَوْلاَ اللَّهُ مَا اهْتَدَيْنَا وَلاَ تَصَدَّقْنَا وَلاَ صَلَّيْنَا فَأَنْزِلَنْ سَكِينَةً عَلَيْنَا وَثَبِّتِ الأَقْدَامَ إِنْ لاَقَيْنَا إِنَّ الأُلَى قَدْ بَغَوْا عَلَيْنَا إِذَا أَرَادُوا فِتْنَةً أَبَيْنَا وَرَفَعَ بِهَا صَوْتَهُ أَبَيْنَا أَبَيْنَا.

訳：

アル＝バラーウ رضى الله عنه は言った：**預言者ﷺはハンダクの日、お腹が土ぼこりで覆われるまで土を運ばれ、こう詩を唱えておられた。「アッラーにかけて、アッラーがおられなければ、私たちは導かれず、施しもせず、礼拝もしなかったでしょう。どうか私たちに静穏を下し、（敵に）会うときには私たちの足を堅固にしてください。まことにかれらは私たちを不当に扱いました。かれらが騒乱（フィトナ）を望むなら、私たちは拒みます。」** 使徒は次の言葉で声を高められた。「**アバイナー、アバイナー！**」（私たちは拒む、私たちは拒む！）。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムスリム・ブン・イブラーヒーム ← シュウバ ← アブー・イスハーク ← アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、ハンダクの戦いの章、ハディース第 4104 番；第 4106 番にも。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4104

別の伝承でアル＝バラーウは、土ぼこりが使徒のお腹の皮膚を覆って見えなくなるほどだったと言い、使徒は土を運びながら**アブドゥッラー・ブン・ラワーハの詩**を唱えられたと伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』4106）。

詩の言葉	その意味
「アッラーがおられなければ、私たちは導かれなかった」	導きはアッラーの恵みであり、私たちの努力だけによるのではない
「私たちに静穏を下してください」	脅威に直面したときに心の平安（サキーナ）を求める
「私たちの足を堅固にしてください」	戦場での堅固さを求める
「アバイナー、アバイナー！」	私たちは不正に屈することを拒む

教訓：良いズィクルや詩は、重労働のときに**士気を高めます**。民とともに土ぼこりにまみれる指導者は、命令を出すだけの指導者よりも愛されます。

砂に変わった大きな岩

掘っている最中、教友たちは割ることのできないほど硬い岩に突き当たりました。かれらはこの問題をアッラーの使徒 ﷺ のもとへ持って行きました。ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は、その後かれの家で起きた出来事も含めて、何が起きたかを語っています：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4101 番

حَدَّثَنَا خَلاَّدُ بْنُ يَحْيَى، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْوَاحِدِ بْنُ أَيْمَنَ، عَنْ أَبِيهِ، قَالَ أَتَيْتُ جَابِرًا ـ رضى الله عنه ـ فَقَالَ إِنَّا يَوْمَ الْخَنْدَقِ نَحْفِرُ فَعَرَضَتْ كُدْيَةٌ شَدِيدَةٌ، فَجَاءُوا النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فَقَالُوا هَذِهِ كُدْيَةٌ عَرَضَتْ فِي الْخَنْدَقِ، فَقَالَ أَنَا نَازِلٌ. ثُمَّ قَامَ وَبَطْنُهُ مَعْصُوبٌ بِحَجَرٍ، وَلَبِثْنَا ثَلاَثَةَ أَيَّامٍ لاَ نَذُوقُ ذَوَاقًا، فَأَخَذَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم الْمِعْوَلَ فَضَرَبَ، فَعَادَ كَثِيبًا أَهْيَلَ أَوْ أَهْيَمَ، فَقُلْتُ يَا رَسُولَ اللَّهِ ائْذَنْ لِي إِلَى الْبَيْتِ. فَقُلْتُ لاِمْرَأَتِي رَأَيْتُ بِالنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم شَيْئًا، مَا كَانَ فِي ذَلِكَ صَبْرٌ، فَعِنْدَكِ شَىْءٌ قَالَتْ عِنْدِي شَعِيرٌ وَعَنَاقٌ. فَذَبَحْتُ الْعَنَاقَ وَطَحَنَتِ الشَّعِيرَ، حَتَّى جَعَلْنَا اللَّحْمَ فِي الْبُرْمَةِ، ثُمَّ جِئْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم وَالْعَجِينُ قَدِ انْكَسَرَ، وَالْبُرْمَةُ بَيْنَ الأَثَافِيِّ قَدْ كَادَتْ أَنْ تَنْضَجَ فَقُلْتُ طُعَيِّمٌ لِي، فَقُمْ أَنْتَ يَا رَسُولَ اللَّهِ وَرَجُلٌ أَوْ رَجُلاَنِ. قَالَ كَمْ هُوَ. فَذَكَرْتُ لَهُ، قَالَ كَثِيرٌ طَيِّبٌ. قَالَ قُلْ لَهَا لاَ تَنْزِعُ الْبُرْمَةَ وَلاَ الْخُبْزَ مِنَ التَّنُّورِ حَتَّى آتِيَ. فَقَالَ قُومُوا. فَقَامَ الْمُهَاجِرُونَ وَالأَنْصَارُ، فَلَمَّا دَخَلَ عَلَى امْرَأَتِهِ قَالَ وَيْحَكِ جَاءَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم بِالْمُهَاجِرِينَ وَالأَنْصَارِ وَمَنْ مَعَهُمْ. قَالَتْ هَلْ سَأَلَكَ قُلْتُ نَعَمْ. فَقَالَ ادْخُلُوا وَلاَ تَضَاغَطُوا. فَجَعَلَ يَكْسِرُ الْخُبْزَ وَيَجْعَلُ عَلَيْهِ اللَّحْمَ، وَيُخَمِّرُ الْبُرْمَةَ وَالتَّنُّورَ إِذَا أَخَذَ مِنْهُ، وَيُقَرِّبُ إِلَى أَصْحَابِهِ ثُمَّ يَنْزِعُ، فَلَمْ يَزَلْ يَكْسِرُ الْخُبْزَ وَيَغْرِفُ حَتَّى شَبِعُوا وَبَقِيَ بَقِيَّةٌ قَالَ كُلِي هَذَا وَأَهْدِي، فَإِنَّ النَّاسَ أَصَابَتْهُمْ مَجَاعَةٌ.

訳：

ジャービル رضي الله عنه は言った：**ハンダクの日、私たちが塹壕を掘っていると、非常に硬い大きな岩に突き当たった。かれらは預言者 ﷺ のもとへ来て言った。「塹壕を妨げる硬い岩があります。」使徒は言われた。「私が降りよう。」使徒は立ち上がられたが、そのお腹には石が巻かれていた。私たちは三日間何も口にしていなかったのである。預言者 ﷺ はつるはしを取って岩を打たれると、岩は崩れた砂のようになった。** 私は言った。「アッラーの使徒よ、家に帰らせてください。」私は妻に言った。「私は預言者 ﷺ が、私には耐えられないような状態におられるのを見た。何かあるか。」妻は言った。「少しの大麦と子山羊が一頭あります。」私は子山羊を屠り、妻は大麦を挽いて、私たちは肉を鍋に入れた。それから私は預言者 ﷺ のもとへ行って言った。「少し食べ物があります。アッラーの使徒よ、一人か二人とともにお越しください。」使徒は「どれくらいか」と尋ねられ、私は伝えた。使徒は言われた。**「多くて良い。妻に言いなさい。私が来るまで鍋を下ろさず、パンをかまどから出さないようにと。」** それから使徒は「立ちなさい！」と言われ、ムハージルーンとアンサールが立ち上がった...使徒はパンをちぎって肉をのせ始め、何かを取るたびに鍋とかまどに覆いをされた。**使徒はパンをちぎり、すくい続けられ、ついに皆が満腹になったが、まだ残りがあった。** 使徒は言われた。「これを食べ、ほかの人にも贈りなさい。人々は飢えに苦しんでいるのだから。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ハッラード・ブン・ヤフヤー ← アブドゥル＝ワーヒド・ブン・アイマン ← その父アイマン・アル＝ハバシー ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、ハンダクの戦いの章、ハディース第 4101 番。訳文は一部要約。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4101

使徒のお腹の石

この小さな詳細に注目してください：**アッラーの使徒 ﷺ のお腹には石が巻かれていた**のです。三日間何も口にしていなかったからです。アラブ人は飢えをこらえ、背筋を伸ばすためにお腹に石を巻きました。このウンマの指導者は、従う者たちと同じように — いや、それ以上に — 飢えておられたのです。

スィーラの注：岩を打たれたときの吉報

『**スナン・アン＝ナサーイー**』**3176** の伝承（ハサンと評価）によると、アッラーの使徒 ﷺ が岩を打たれるたびに光がほとばしり、岩の三分の一が砕けました。使徒は「あなたの主の御言葉は、真実と公正において完成された」と唱えられ、ウンマが**ホスロー（ペルシャ）**と**カエサル（ローマ）**の国々を開くことを告げられました。アル＝バラーウからの『**ムスナド・アフマド**』の伝承では、**シャーム、ペルシャ、イエメン**の鍵が述べられています。

当時ムスリムたちは飢え、包囲されていました — それでもアッラーの使徒 ﷺ は遠い未来を見ておられたのです。数十年のうちに、その約束は現実となりました。

参照：

『スナン・アン＝ナサーイー』3176；『ムスナド・アフマド』。https://sunnah.com/nasai:3176

教訓：自分には重すぎる問題は、**指導者とアッラー**のもとへ持って行きます。そして信仰者の希望は、お腹が空っぽであっても消えることがありません。

アッラーの使徒ﷺと教友たちの飢え

お腹に石を巻くことは、まれな出来事ではありませんでした。アブー・フライラ رضى الله عنه は誓って言いました。「**アッラーにかけて…私は時に飢えのために地面に横たわり、時に飢えのためにお腹に石を巻いた。**」（『サヒーフ・ブハーリー』6452）。アーイシャ رضى الله عنها もこう言いました。「**ムハンマドの家族は、マディーナに来られてから亡くなられるまで、三日続けて小麦のパンで満腹になったことがなかった。**」（『サヒーフ・ブハーリー』5416）。

アッラーの使徒 ﷺ は、国の指導者であったにもかかわらず**質素な**生活を選ばれました。ハンダクでの飢えは、マディーナが貧しかったからだけではありません。使徒が常に**他の人を優先された**からであり — また包囲が補給を妨げたからでもあります。教訓：贅沢は成功の尺度ではありません。世界の歴史を変えたのは、まさにこの飢えた教友たちだったのです。

ジャービルのもてなし

上のジャービルのハディースには、**奇跡（ムウジザ）**の一つが含まれています — アッラーの使徒 ﷺ の最も有名なものの一つです。別の伝承でジャービルは、食べ物はわずか**大麦一サーウ**と子山羊一頭だったと述べ、妻はささやきました。「アッラーの使徒 ﷺ と教友たちの前で私に恥をかかせないで！」しかし使徒は大きな声で呼びかけられました。「**ハンダクの人々よ！ジャービルが食事を用意した。さあ来なさい！**」（『サヒーフ・ブハーリー』4102）。

使徒は生地と鍋に少し唾をつけ、祝福を祈られました。ジャービルは誓って言いました。**かれらは千人であった**が、皆満腹になるまで食べて去って行った。それでも鍋は満ちたまま煮え立ち、生地は元のまま焼かれていた、と（『サヒーフ・ブハーリー』4102）。

教訓	ジャービルのもてなしから
教友の思いやり	ジャービルはアッラーの使徒 ﷺ が飢えておられるのを見るに忍びなかった
指導者の公正	使徒は独りで食べず、ハンダクの全員を招かれた
祝福（バラカ）	わずかな食べ物で千人が満腹になった
分かち合い	「食べて贈りなさい。人々は飢えに苦しんでいるのだから」

教訓：**祝福（バラカ）**は食べ物の多さにではなく、与える誠実さと聞き届けられる祈りにあります。アッラーの使徒 ﷺ は、指導者は民が満腹になった**後に**食べるものだと教えられました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

部族連合の到着

塹壕は短期間で掘り終えられました — スィーラ書と Wikipedia によると約**六日間**です。まもなく部族連合軍が到着しました。かれらは騎兵を阻む塹壕を見て驚きました。「これはアラブ人がしたことのない策略だ！」（スィーラ書）。

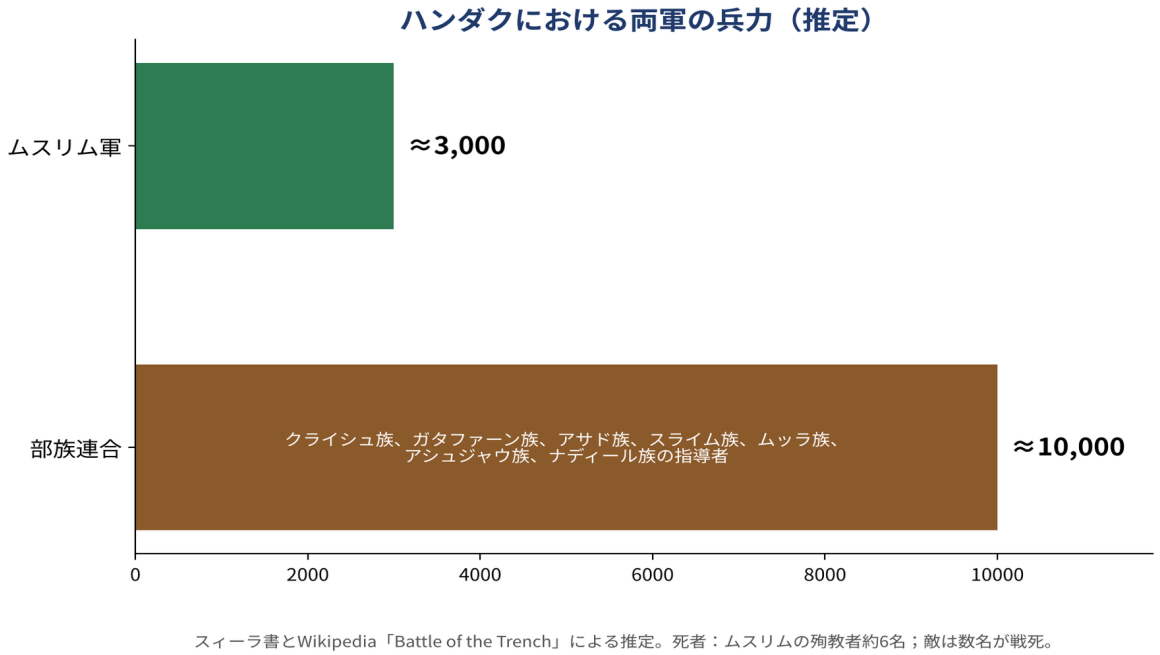


図 3：ハンダクにおける両軍の兵力（推定）。

スィーラの注：長い包囲

スィーラ書によると、約**三千**人のムスリムが**サルウ山**のふもとに陣を張り、山を背にして塹壕に向かいました。包囲は約**二十夜**続きました（ほぼ一か月とする伝承もあります）。大きな戦闘は起こらず、矢の撃ち合いと、塹壕を越えようとする数回の試みがあっただけでした。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；Wikipedia「Battle of the Trench」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_the_Trench

教訓：**賢明な備え**は数の不足を補うことができます。塹壕は、危険な野戦を、敵自身を弱らせる包囲戦へと変えたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

心臓は喉もとまで

この包囲は、ヒジュラ以来最も重い**信仰の試練**でした。前には敵、内には飢え、寒さ、そして背後からの裏切りの知らせ。アッラーはその状況を実に正確に描いておられます：

「その時目は霞み、心臓は喉もとまで届いて、あなたがたはアッラーに就いて、色々と（悪い）想像をした」『タフスィール・イブン・カスィール』33:10。

「こうして信者たちは試みられ、かれらは猛烈な動揺に播さぶられた。」『タフスィール・イブン・カスィール』33:11。

クルアーンの表現	その意味
「目は霞み」	視線が定まらないほどの恐怖
「心臓は喉もとまで」	極限に達した恐れ（アラビア語の節の直訳）
「アッラーに就いて色々と想像した」	確信する者もいれば、疑う者もいた
「猛烈な動揺に揺さぶられた」	信仰をふるいにかける試練

クルアーンは教友たちの恐れを隠しません。かれらも恐れることのある**人間**であったと認めています。教訓：信仰とは恐れがないことではなく、心が揺れても**堅固であり続ける**ことです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

偽信者たちの言い訳

重い試練は**心の中をあらわにします**。信仰者が持ちこたえる一方で、偽信者たちが声を上げ始めました。アッラーはかれらの言葉を記録されています：

「その時、偽信者や心に病の宿っている者たちは、『アッラーとその使徒は、只欺いてわたしたちに約束したのです。』と言った。」『タフスィール・イブン・カスィール』33:12。

かれらの一部は、帰るための口実を探しました：**「またかれらの一団は言った。『ヤスリブ（アル・マディーナ）の民よ。あなたがたにはとても頑張れるものではない。引き返しなさい。』またかれらのある者は、預言者に（帰還の）許しを願って、『本当にわたしたちの家は（無防備で危険に）晒されています。』と言った。かれらは、晒されているのではない、只逃亡を望んだだけである。」**『タフスィール・イブン・カスィール』33:13。

スィーラの注：「ホスローの財宝を約束されたが…」

イブン・カスィールとスィーラ書によると、**ムアッティブ・ブン・クシャイル**という偽信者がこう嘲りました。「ムハンマドはホスローとカエサルの財宝を約束するのに、私たちの誰一人として用を足しに出ることもできない！」この嘲りは、使徒が岩を打たれたときの吉報（第 5 章）を指しています。

参照：

『タフスィール・イブン・カスィール』33:12；イブン・ヒシャーム『預言者伝』。
https://tafsir.app/ibn-katheer/33/12

教訓：偽信者はアッラーの約束を**目の前の状況**で判断し、信仰者は目の前の状況を**アッラーの約束**で判断します。その約束は真実でした。二十年もたたないうちに、ホスローとカエサルの財宝はマディーナへ運ばれたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「これはアッラーが約束されたもの」

同じ光景 — 塹壕の向こうの一万の兵 — が、信仰者の心にはまったく違う反応を生みました：

「信者たちは、部族連合の軍勢を見た時言った。『これはアッラーとかれの使徒が、わたしたちに約束されたものである。アッラーとかれの使徒は、真実を話された。』それは、かれらの信心と服従、帰依の念を、嫌が上にも深めた。」『タフスィール・イブン・カスィール』33:22。

偽信者（33:12）	信仰者（33:22）
「アッラーとその使徒は、只欺いて約束した」	「これはアッラーとかれの使徒が約束されたもの」
帰る口実を探す	塹壕で持ちこたえる
試練が疑いを増す	「それはかれらの信心と服従を深めた」

約束とは何でしょうか。イブン・カスィールは、それは信仰者が勝利を与えられる前に必ず試みられるというアッラーの約束を指すと述べています。雌牛章（2:214）でアッラーはこう仰せられます。「それともあなたがたは、先に過ぎ去った者たちが出会ったような（試みが）まだ訪れない先に（至上の幸福の）園に入ろうと考えるのか。」

教訓：同じ試練が、ある人の**信仰を深め**、別の人の**疑いを深める**こともあります。その違いを生むのは、アッラーの約束への確信です。

「アッラーの御助けは何時（来る）だろう」

イブン・カスィールが 33:22 の「約束」と解釈した節は、こうです：「**それともあなたがたは、先に過ぎ去った者たちが出会ったような（試みが）まだ訪れない先に（至上の幸福の）園に入ろうと考えるのか。かれらは災難や困窮に見舞われ、（不安の中に）動揺させられて、使徒も、一緒の信者たちも、『アッラーの御助けは、何時（来る）だろう。』 と叫んだ程であった。ああ、本当にアッラーの御助けは近付いている。**」『タフスィール・イブン・カスィール』2:214。

言葉の共通点に注目してください。この節は昔の人々が「**動揺させられた**」と述べ、部族連合章 33:11 はハンダクのムスリムたちが「**猛烈な動揺に揺さぶられた**」と述べています。ですから、その動揺が実際にやって来たとき、信仰者はそれをアッラーの御助けが近いという**しるし**として受け止めたのです — アッラーに見捨てられたしるしではなく。

教訓：クルアーンを理解することは、試練に備えて心を整えます。**スンナトゥッラー（アッラーの定め）** — 試練が勝利に先立つこと — を知る者は、たやすく絶望しません。

クライザ族とハワーリー、アッ＝ズバイル

包囲のさなか、最も憂慮すべき知らせが届きました。マディーナに残った最後のユダヤ教徒の部族で、和平条約で結ばれていた**クライザ族**が、**約束を破り**、部族連合の側についたというのです。かれらの居住地はマディーナの南側 — ムスリム軍の背後で、女性や子どもたちの家の近くにありました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2846 番

حَدَّثَنَا أَبُو نُعَيْمٍ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ مُحَمَّدِ بْنِ الْمُنْكَدِرِ، عَنْ جَابِرٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مَنْ يَأْتِينِي بِخَبَرِ الْقَوْمِ يَوْمَ الأَحْزَابِ. قَالَ الزُّبَيْرُ أَنَا. ثُمَّ قَالَ مَنْ يَأْتِينِي بِخَبَرِ الْقَوْمِ. قَالَ الزُّبَيْرُ أَنَا. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم إِنَّ لِكُلِّ نَبِيٍّ حَوَارِيًّا، وَحَوَارِيَّ الزُّبَيْرُ.

訳：

ジャービル رضى الله عنه は言った：**預言者 ﷺ は部族連合の日に言われた。「誰があの民の知らせを私にもたらすか。」アッ＝ズバイルが答えた。「私が。」使徒は再び尋ねられた。「誰があの民の知らせを私にもたらすか。」アッ＝ズバイルが答えた。「私が。」すると預言者 ﷺ は言われた。「まことにどの預言者にもハワーリー（忠実な助け手）がいる。私のハワーリーはアッ＝ズバイルである。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・ヌアイム ← スフヤーン（アッ＝サウリー） ← ムハンマド・ブン・アル＝ムンカディル ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、ハディース第 2846 番；第 4113 番にも。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2846

スィーラの注：フヤイ・ブン・アフタブとカアブ・ブン・アサド

スィーラ書によると、ナディール族の指導者**フヤイ・ブン・アフタブ**は、クライザ族の長**カアブ・ブン・アサド**に会いに行き、説得を重ねて、ついにアッラーの使徒 ﷺ との条約を破ることに同意させました。使徒は**サアド・ブン・ムアーズ**と**サアド・ブン・ウバーダ**を遣わして知らせを確かめさせ、二人は裏切りが事実であることを知りました。

イブン・ハジャルは『ファトフ・アル＝バーリー』で、上のハディースでアッ＝ズバイルが探った知らせとは**クライザ族**についての知らせであったと述べています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』ハディース 2846 の注釈。

教訓：危険なときにも、アッラーの使徒 ﷺ は行動する前に**正確な情報**を求められ、勇気をもって進み出た教友を称えられました — アッ＝ズバイルは「**ハワーリー**」（忠実な助け手）と呼ばれました。預言者イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ の弟子たち（ハワーリーユーン）のように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アリーとアムル・ブン・アブド・ウッド

塹壕は大きな攻撃を防ぎましたが、敵の騎兵の何人かは塹壕の狭い所を越えることに成功しました。スィーラ書は有名な出来事を記録しています：

スィーラの注：アリー・ブン・アビー・ターリブとアムル・ブン・アブド・ウッドの対決

アムル・ブン・アブド・ウッド — 勇猛で知られたクライシュ族の勇士 — が数人の騎兵とともに塹壕を越え、ムスリムたちに一騎打ちを挑みました。まだ若かった**アリー・ブン・アビー・ターリブ** رضى الله عنه がこの挑戦に応じました。アリーはまずかれをイスラームに招きましたが、アムルは拒みました。二人は戦い、アリーがかれを倒しました。他の騎兵たちは塹壕の向こうへ退きました。

この話はスィーラ書（イブン・イスハーク）や歴史書で有名ですが、**『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』には見られません**。長い対話など、細部の一部は研究者の間で見解が分かれています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝』ハンダクの章。

一騎打ちの場でさえ、アリーが**まずイスラームに招いた**ことに注目してください — これは、アッラーの使徒 ﷺ がすべての部隊長に与えられた教え（『サヒーフ・ムスリム』1731；第 11 巻）に沿ったものです。教訓：ムスリムの目的は単なる勝利ではなく**導き**です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

逃した礼拝

包囲のある日、敵の攻撃と矢が絶え間なく続き、ムスリムたちは日が沈むまで**アスルの礼拝をする暇がありませんでした**。アリー رضى الله عنه はアッラーの使徒 ﷺ の言葉を伝えています：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4111 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ، حَدَّثَنَا رَوْحٌ، حَدَّثَنَا هِشَامٌ، عَنْ مُحَمَّدٍ، عَنْ عَبِيدَةَ، عَنْ عَلِيٍّ ـ رضى الله عنه ـ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم أَنَّهُ قَالَ يَوْمَ الْخَنْدَقِ مَلأَ اللَّهُ عَلَيْهِمْ بُيُوتَهُمْ وَقُبُورَهُمْ نَارًا كَمَا شَغَلُونَا عَنْ صَلاَةِ الْوُسْطَى حَتَّى غَابَتِ الشَّمْسُ.

訳：

アリー رضى الله عنه は、預言者 ﷺ がハンダクの日にこう言われたと伝えている：「**アッラーがかれらの家と墓を火で満たされますように。かれらは日が沈むまで、私たちを中間の礼拝（アスル）から妨げたのだから。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：イスハーク（・ブン・マンスール） ← ラウフ（・ブン・ウバーダ） ← ヒシャーム（・ブン・ハッサーン） ← ムハンマド（・ブン・スィーリーン） ← アビーダ（・アッ＝サルマーニー） ← アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、ハンダクの戦いの章、ハディース第 4111 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4111

ジャービル رضى الله عنه はまた、日没後にウマルがクライシュ族の不信者をののしりながら来て、「アッラーの使徒よ、私は日が沈みかけるまでアスルの礼拝をすることができませんでした」と言ったと伝えています。使徒は言われました。「**アッラーにかけて、私もまだ礼拝していない。**」 そしてかれらは清めを行い、使徒は**日没後**

にアスルを礼拝され、その後マグリブを礼拝されました（『サヒーフ・ブハーリー』596）。

上のアリーのハディースは、次の節の**中間の礼拝**がアスルの礼拝であることの根拠にもなっています：「**各礼拝を、特に中間の礼拝を謹厳に守れ、敬虔にアッラーの御前に立て。**」『タフスィール・イブン・カスィール』2:238。

学者たちは、一説によればこの出来事は**恐怖時の礼拝の節が下される前**に起きた、あるいは攻撃が余地を与えなかったためだと述べています。教訓：礼拝の時を逃したことをアッラーの使徒 ﷺ が悲しまれたことは、**礼拝の地位がいかに大きいか**を示しています — そして逃した礼拝は、順序に従い、できるだけ早く補わなければなりません。

逃した礼拝の規定

ハンダクの出来事は、**礼拝の補い（カダー）**の規定の基礎となりました。アナス رضى الله عنه は、預言者 ﷺ がこう言われたと伝えています。「**礼拝を忘れた者は、思い出したときにそれを行いなさい。それ以外に償いはない。**」（『サヒーフ・ブハーリー』597）。

項目	説明
補いの義務	逃した礼拝は補わなければならず、免除されない
速やかに	「思い出したときに」— 理由なく遅らせない
順序	使徒はまずアスルを、次にマグリブを礼拝された（ブハーリー 596）
集団で	補いの礼拝は、ハンダクのように集団で行うことができる

学者たちは、**正当な理由で逃した場合**（忘れた、眠り込んだ、ハンダクのように妨げられた）は罪にならず、**故意に礼拝を放棄すること**は大罪であると区別しています。教訓：戦時にあっても、アッラーの使徒 ﷺ は一つの礼拝も補わずに過ぎ去らせることはありませんでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

サアド・ブン・ムアーズの負傷

ハンダクで負傷した者の中に、**サアド・ブン・ムアーズ** رضي الله عنه がいました。アウス族の長で、アンサールの中でも最も尊敬された人物の一人です。アーイシャ رضي الله عنها は、**サアドはヒッバーン・ブン・アル＝アリカというクライシュ族の男に、腕の血管を正確に射抜かれた**と伝えています。アッラーの使徒 ﷺ は、近くから見舞えるように、かれのために**モスクの中に一張りのテント**を張られました（『サヒーフ・ブハーリー』4122）。

サアドの祈り

同じハディースで、サアドはこう祈りました。「**アッラーよ、あなたはご存知です。あなたの使徒を嘘つき呼ばわりし、追い出した民と、あなたの道において戦うこと以上に私が愛するものはありません。アッラーよ、もしクライシュ族との戦いがまだ残っているなら、かれらと戦うために私の命を延ばしてください。しかしもしあなたがそれを終わらせられたのなら、この傷を開き、それによって私を死なせてください。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4122）。

サアドについてのその後の物語 — クライザ族への裁定とかれの死 — は、イン・シャー・アッラー、第 13 巻で語ります。教訓：アッラーの使徒 ﷺ は**負傷した教友をいたわられ**、愛情深く接されました。サアドは自らの寿命をすべてアッラーに委ねました。

サアドの死にアルシュ（玉座）が震えた

ハンダクでの傷は、サアドが祈ったとおり、まもなくかれの死をもたらしました。ジャービル رضى الله عنه は言いました。私は預言者 ﷺ がこう言われるのを聞いた。**「慈悲深き御方の玉座（アルシュ）は、サアド・ブン・ムアーズの死に震えた。」**（『サヒーフ・ブハーリー』3803）。

サアドは**ムスアブ・ブン・ウマイル**の手でイスラームに入り（第 10 巻）、その部族アブドゥル・アシュハル族も皆、かれとともにイスラームに入りました。イスラームに入ってわずか約六年で、かれは最も高い地位の教友の一人となりました。教訓：アッラーのもとでの人の価値は**寿命の長さ**ではなく、**真剣さと誠実さ**によって量られます。

ヌアイム・ブン・マスウード

部族連合の同盟は堅固に見えましたが、アッラーはそれを**内側から**崩されました。アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「**戦争とは策略である。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3030）。

スィーラの注：ヌアイム・ブン・マスウードの計略

スィーラ書によると、すべての側から尊敬されていたガタファーン族の指導者**ヌアイム・ブン・マスウード・アル＝アシュジャイー**は、ひそかにアッラーの使徒 ﷺ のもとへ来て、自分がムスリムになったことを告げました。かれの部族はまだそれを知りませんでした。使徒はかれに言われました。「あなたは一人だ。できる限りかれら（の同盟）を弱めなさい。」

ヌアイムは**クライザ族**のもとへ行き、クライシュ族がかれらを見捨てるかもしれないので、保証としてクライシュ族から人質を求めるよう忠告しました。次に**クライシュ族とガタファーン族**のもとへ行き、クライザ族は後悔していて、人質をアッラーの使徒 ﷺ に引き渡そうとしていると告げました。クライザ族が実際に人質を求めると、両者は**互いに疑い合い**、同盟にひびが入りました。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；Wikipedia「Battle of the Trench」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_the_Trench

学者たちは、**戦争における策略** — 計画を隠したり敵を惑わせたりすること — は許されるが、**条約を裏切ること**は依然として禁じられていると説明しています。教訓：誠実な者は、たとえ一人であっても、アッラーが状況を変えられる原因となりうるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イスラームにおける「策略」の限界

イスラームは誠実さについて非常に厳格ですが、**限られた例外**を設けています。ウンム・クルスーム・ビント・ウクバ رضى الله عنها は、アッラーの使徒 ﷺ がこう言われたと伝えています。「**人々の間を和解させ、良いことを伝えたり良いことを言ったりする者は、嘘つきではない。**」 イブン・シハーブは、その許しは三つの場合に限られると言いました。**戦争の中、人々の間の和解、そして夫婦の会話**です（『サヒーフ・ムスリム』2605）。

許されること	許されないこと
戦争の計画を隠す	結ばれた条約を裏切る
位置について敵を惑わす	安全を保証された者を殺す
敵の同盟を分裂させる	売買や預かり物で欺く

教訓：戦争における「策略」は**戦略**であって、**裏切り**ではありません。ヌアイムはいかなる条約も破っていません。知恵を用いて命を救い、戦いを止めたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

部族連合への祈り

塹壕、見張り、戦略といった努力に加えて、アッラーの使徒 ﷺ は**祈り**を止められませんでした。アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファー رضى الله عنهما が使徒の祈りを伝えています：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 2933 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ مُحَمَّدٍ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ اللَّهِ، أَخْبَرَنَا إِسْمَاعِيلُ بْنُ أَبِي خَالِدٍ، أَنَّهُ سَمِعَ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ أَبِي أَوْفَى ـ رضى الله عنهما ـ يَقُولُ دَعَا رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ الأَحْزَابِ عَلَى الْمُشْرِكِينَ فَقَالَ اللَّهُمَّ مُنْزِلَ الْكِتَابِ سَرِيعَ الْحِسَابِ، اللَّهُمَّ اهْزِمِ الأَحْزَابَ، اللَّهُمَّ اهْزِمْهُمْ وَزَلْزِلْهُمْ.

訳：

アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファー رضى الله عنهما は言った：**アッラーの使徒 ﷺ は部族連合の日、多神教徒たちに対してこう祈られた。「アッラーよ、啓典を下される御方、清算の速やかな御方よ、部族連合を打ち破ってください。アッラーよ、かれらを打ち破り、かれらを揺さぶってください。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・ムハンマド ← アブドゥッラー（・ブン・アル＝ムバーラク） ← イスマーイール・ブン・アビー・ハーリド ← アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファー رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ジハードと遠征の書、多神教徒の敗北を祈る章、ハディース第 2933 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2933

祈りの中のアッラーの御名	状況との関わり
「啓典を下される御方」	啓示を下される御方は、その担い手を必ず助けられる

祈りの中のアッラーの御名	状況との関わり
「清算の速やかな御方」	アッラーは敵にすぐに報いることがおできになる
「かれらを打ち破り、揺さぶってください」	風と分裂によって聞き届けられた願い

この祈りは**聞き届けられました**。アッラーはかれらを打ち破り、揺さぶられたのです—内部の分裂（第 15 章）と天からの風（第 18 章）によって。教訓：祈りは努力の代わりにならず、努力も祈りの代わりになりません。両者はともに進みます。

フザイファの夜

包囲の終わり近く、非常に寒く風の強い夜が訪れました。アッラーの使徒 ﷺ は、敵の陣営へ渡って知らせを持ち帰る者を必要とされました。**フザイファ・ブン・アル＝ヤマーン** رضى الله عنه ― その父はウフドで殉教しました（第 10 巻）― がその夜のことを語っています：

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1788 番

حَدَّثَنَا زُهَيْرُ بْنُ حَرْبٍ، وَإِسْحَاقُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ، جَمِيعًا عَنْ جَرِيرٍ، قَالَ زُهَيْرٌ حَدَّثَنَا جَرِيرٌ، عَنِ الأَعْمَشِ، عَنْ إِبْرَاهِيمَ التَّيْمِيِّ، عَنْ أَبِيهِ، قَالَ كُنَّا عِنْدَ حُذَيْفَةَ فَقَالَ رَجُلٌ لَوْ أَدْرَكْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَاتَلْتُ مَعَهُ وَأَبْلَيْتُ فَقَالَ حُذَيْفَةُ أَنْتَ كُنْتَ تَفْعَلُ ذَلِكَ لَقَدْ رَأَيْتُنَا مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم لَيْلَةَ الأَحْزَابِ وَأَخَذَتْنَا رِيحٌ شَدِيدَةٌ وَقُرٌّ فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَلاَ رَجُلٌ يَأْتِينِي بِخَبَرِ الْقَوْمِ جَعَلَهُ اللَّهُ مَعِي يَوْمَ الْقِيَامَةِ. فَسَكَتْنَا فَلَمْ يُجِبْهُ مِنَّا أَحَدٌ ثُمَّ قَالَ أَلاَ رَجُلٌ يَأْتِينَا بِخَبَرِ الْقَوْمِ جَعَلَهُ اللَّهُ مَعِي يَوْمَ الْقِيَامَةِ. فَسَكَتْنَا فَلَمْ يُجِبْهُ مِنَّا أَحَدٌ ثُمَّ قَالَ أَلاَ رَجُلٌ يَأْتِينَا بِخَبَرِ الْقَوْمِ جَعَلَهُ اللَّهُ مَعِي يَوْمَ الْقِيَامَةِ. فَسَكَتْنَا فَلَمْ يُجِبْهُ مِنَّا أَحَدٌ فَقَالَ قُمْ يَا حُذَيْفَةُ فَأْتِنَا بِخَبَرِ الْقَوْمِ. فَلَمْ أَجِدْ بُدًّا إِذْ دَعَانِي بِاسْمِي أَنْ أَقُومَ قَالَ اذْهَبْ فَأْتِنِي بِخَبَرِ الْقَوْمِ وَلاَ تَذْعَرْهُمْ عَلَىَّ. فَلَمَّا وَلَّيْتُ مِنْ عِنْدِهِ جَعَلْتُ كَأَنَّمَا أَمْشِي فِي حَمَّامٍ حَتَّى أَتَيْتُهُمْ فَرَأَيْتُ أَبَا سُفْيَانَ يَصْلِي ظَهْرَهُ بِالنَّارِ فَوَضَعْتُ سَهْمًا فِي كَبِدِ الْقَوْسِ فَأَرَدْتُ أَنْ أَرْمِيَهُ فَذَكَرْتُ قَوْلَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَلاَ تَذْعَرْهُمْ عَلَىَّ. وَلَوْ رَمَيْتُهُ لأَصَبْتُهُ فَرَجَعْتُ وَأَنَا أَمْشِي فِي مِثْلِ الْحَمَّامِ فَلَمَّا أَتَيْتُهُ فَأَخْبَرْتُهُ بِخَبَرِ الْقَوْمِ وَفَرَغْتُ قُرِرْتُ فَأَلْبَسَنِي رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مِنْ فَضْلِ عَبَاءَةٍ كَانَتْ عَلَيْهِ يُصَلِّي فِيهَا فَلَمْ أَزَلْ نَائِمًا حَتَّى أَصْبَحْتُ فَلَمَّا أَصْبَحْتُ قَالَ قُمْ يَا نَوْمَانُ.

訳：

イブラーヒーム・アッ＝タイミーはその父から伝えている。私たちがフザイファとともにいると、一人の男が言った。「もし私がアッラーの使徒 ﷺ にお会いできていたら、ともに懸命に戦っただろうに。」フザイファは言った。「あなたがそうしただろうか。

私は部族連合の夜、アッラーの使徒 ﷺ とともにいた。私たちは激しい風とひどい寒さに見舞われた。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。『あの民の知らせを私にもたらす者はいないか。アッラーはその者を審判の日に私とともにおられるようにされるだろう。』 私たちは皆黙り、誰一人答えなかった」— それが三度続いた。すると使徒は言われた。**「フザイファよ、立って、あの民の知らせを私にもたらしなさい。かれらを刺激してはならない。」** フザイファは言った。「使徒のもとを離れると、私はまるで熱い浴場の中を歩いているかのように感じ、ついにかれらのところに着いた。アブー・スフヤーンが火で背中を温めているのが見えた。私はかれを射ようと弓に矢をつがえたが、アッラーの使徒 ﷺ の言葉を思い出した。『かれらを刺激してはならない。』もし射ていたら、きっと当たっていただろう。私は戻ったが、まだ熱い浴場の中を歩いているようだった。使徒に知らせを伝え終えると、私は再び寒さを感じた。**アッラーの使徒 ﷺ は、礼拝のときに着ておられた外衣の余りで私をくるんでくださり、私は朝までぐっすり眠った。朝になると使徒は言われた。『起きなさい、よく眠る者よ！』」**

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ズハイル・ブン・ハルブ と イスハーク・ブン・イブラーヒーム ← ジャリール ← アル＝アアマシュ ← イブラーヒーム・アッ＝タイミー ← その父ヤズィード・ブン・シャリーク・アッ＝タイミー ← フザイファ・ブン・アル＝ヤマーン رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』ジハードと遠征の書、部族連合の戦いの章、ハディース第 1788 番。

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1788

従順の中のぬくもり

注目してください。名を呼ばれる前は、ひどい寒さと恐れのために誰一人応じませんでした。しかしアッラーの使徒 ﷺ が**かれの名を呼ばれる**と、フザイファは立ち上がりました — そしてその命令を果たす道のりの間ずっと、**熱い浴場にいるように暖かく**感じたのです。任務が終わるとすぐに、寒さが戻ってきました。

フザイファはまた、機会がありながらもアブー・スフヤーンを射ることを**自制しました**。「かれらを刺激してはならない」という命令に従ったからです。教訓：指導者の命令への従順は — 機会が魅力的に見えるときでさえ — 勝利の一部です。そしてアッラーは従う者の務めを**容易にされます**。

フザイファ：秘密を託された者 — アッラーの使徒ﷺ

ハンダクの夜にアッラーの使徒 ﷺ がフザイファに寄せた信頼は、偶然ではありませんでした。何年も後、アブー・アッ＝ダルダーウ رضى الله عنه はクーファから来た男に尋ねました。「**あなたがたの中に、他の誰も知らない秘密を託された者、フザイファがいるではないか。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3743）。

学者たちは、その秘密とは**偽信者たちの名前**に関するもので、アッラーの使徒 ﷺ がかれに告げられたものだと述べています。フザイファはそれを誠実に守りました。ハンダクの夜は、かれをそれにふさわしい者とした二つの資質を示しています。敵の陣営へ渡る**勇気**と、アブー・スフヤーンへの矢を控える**規律**です。

教訓：大きな信託は、小さく困難な信託において**実証された**者に与えられます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

風と目に見えぬ軍勢

その同じ夜、アッラーは部族連合の陣営に**非常に強く冷たい風**を遣わされました。アッラーはこう仰せられます：

「信仰する者よ、あなたがたに与えられたアッラーの恩恵を念え。大軍があなたがたに攻め寄せて来た時、われはかれらに対し大風と、目に見えぬ軍勢を遣わした。アッラーは、あなたがたの行うことを（明確に）御存知であられる。」『タフスィール・イブン・カスィール』33:9。

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、預言者 ﷺ がこう言われたと伝えています。**「私はサバー（東風）によって勝利を与えられ、アード族はダブール（西風）によって滅ぼされた。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4105）。イマーム・ブハーリーはこのハディースをハンダクの戦いの章に置いています。

スィーラの注：敵陣での風の影響

スィーラ書によると、その風は**火を消し**、テントを吹き飛ばし、部族連合軍の鍋をひっくり返しましたが、ムスリムの陣営は守られていました。ついにアブー・スフヤーンは叫びました。「クライシュの者たちよ、お前たちはもう留まれる場所にいない…出発せよ。私も出発する。」

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』；Wikipedia「Battle of the Trench」。
https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_the_Trench

教訓：アッラーには**目に見えぬ軍勢**があります — 風、天使、そして敵の心の中の恐怖です。かつて背いたアード族を滅ぼしたのと同じ風が、今度は信仰者への助けとなったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

風と寒さ：科学の説明

フザイファのハディースは、ムスリムたちが**激しい風とひどい寒さに見舞われた**と述べています（『サヒーフ・ムスリム』1788）。現代科学は、風が寒い夜をはるかに厳しく感じさせる理由を説明しています。米国国立気象局（NWS）によると、**風が強く吹くほど体から熱を奪い、皮膚の温度を下げ**、ついには体の内部の温度も下げます — これは「**風冷え（ウインドチル）」効果**として知られています（NWS「Understanding Wind Chill」）。

気温	風速 → 体感温度（NWS の例）
0°F（約−18°C）	15 mph（約 24 km/h）→ −19°F（約−28°C）

身を守るもののない開けた平原に陣を張り、火も風に消された部族連合軍にとって、その影響はひどく苦しいものでした。一方ムスリムたちは、サルウ山のふもとでより守られていました。これも「**目に見えぬ軍勢**」（33:9）の一部です — アッラーが創られた自然の法則が、まさにその時に動かされたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーただ独りがかれらを打ち破られた

翌朝、部族連合の陣営は**空っぽ**でした。一万の兵の同盟は、何の勝利も得ずに引き揚げたのです。アッラーはこう仰せられます：

「アッラーは不信心な者たちを、怒りのうちに（アル・マディーナから）何ら益するところなく撤退なされた。戦いには、アッラーは、信者たちの戦闘を（強風や天使によって）凡てにわたって、守って下さる。アッラーは強大にして偉力ならびなき方であられる。」『タフスィール・イブン・カスィール』33:25。

その後アッラーの使徒 ﷺ は、この出来事を思い起こさせるズィクルを繰り返し唱えておられました：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4114 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، عَنْ سَعِيدِ بْنِ أَبِي سَعِيدٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم كَانَ يَقُولُ لاَ إِلَهَ إِلاَّ اللَّهُ وَحْدَهُ، أَعَزَّ جُنْدَهُ، وَنَصَرَ عَبْدَهُ وَغَلَبَ الأَحْزَابَ وَحْدَهُ، فَلاَ شَىْءَ بَعْدَهُ.

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がいつもこう唱えておられたと伝えている：**「アッラーのほかに神はない。唯一の御方。かれはその軍勢に栄誉を与え、そのしもべを助け、ただ独りで部族連合を打ち破られた。かれの後には何ものもない。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← アッ＝ライス ← サイード・ブン・アビー・サイード（アル＝マクブリー） ← その父アブー・サイード・アル＝マクブリー ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、ハンダクの戦いの章、ハディース第 4114 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4114

このズィクルは「**ただ独りで部族連合を打ち破られた**」と述べています — 塹壕でも、軍勢でも、戦略でもありません。それらはすべて手段にすぎず、打ち破られたのはアッラーです。『サヒーフ・ブハーリー』の別の伝承によれば、使徒は旅、ハッジ、ウムラから帰るときにもこのズィクルを唱えられました。

教訓：力の限り努力した後、信仰者は自分ではなく**アッラーに勝利を帰します**。それが成功の中のタウヒードです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

旅から帰るときのズィクル

アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ が戦い、ハッジ、ウムラから帰られるとき、高い所に来るたびに三度タクビールを唱え、それからこう唱えられたと伝えています。「**アッラーのほかに神はない。唯一の御方で、並ぶものはない。大権はかれに属し、讃美はかれに属する。かれはすべてのことに全能であられる。私たちは帰る者、悔い改める者、崇拝する者、サジダする者、私たちの主を讃える者である。アッラーはその約束を果たし、そのしもべを助け、ただ独りで部族連合を打ち破られた。**」（『サヒーフ・ブハーリー』1797）。

このズィクルは、今日でもハッジやウムラの巡礼者に唱えられています。それを唱えるたびに、かれらは**ハンダクの戦いを思い起こすのです** — アッラーが大きな戦闘なしにマディーナを救われたことを。教訓：勝利は高慢ではなく、**ズィクルと感謝**によって記念されます。

「今度はわれらがかれらを攻める」

部族連合の敗北は、イスラームの歴史の**転換点**でした。アッラーの使徒 ﷺ はそれをはっきりと言明されました：

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4109 番

حَدَّثَنَا أَبُو نُعَيْمٍ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنْ سُلَيْمَانَ بْنِ صُرَدٍ، قَالَ قَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ الأَحْزَابِ نَغْزُوهُمْ وَلاَ يَغْزُونَنَا.

訳：

スライマーン・ブン・スラド رضى الله عنه は言った：**預言者 ﷺ は部族連合の日に言われた。「今度はわれらがかれらを攻める。かれらがわれらを攻めることはもうない。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・ヌアイム ← スフヤーン（アッ＝サウリー） ← アブー・イスハーク ← スライマーン・ブン・スラド رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、ハンダクの戦いの章、ハディース第 4109 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4109

ハンダク以前	ハンダク以後
クライシュ族がマディーナを攻めた（バドル、ウフド、ハンダク）	クライシュ族はもうマディーナを攻めなかった
ムスリムは防衛した	ムスリムが主導権を取った
諸部族がマディーナに対して同盟した	諸部族が和平とイスラームのために来始めた

この言葉は**現実となりました**。クライシュ族は二度とマディーナを攻めず、一年後には使徒の方がマッカへ向かわれました（フダイビヤ）。教訓：忍耐は**勝利の扉**です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

立派な模範

ハンダクの戦いについての節のただ中に、アッラーはすべてのムスリムの生活の**偉大な原則**となる一つの節を置かれました：

「本当にアッラーの使徒は、アッラーと終末の日を熱望する者、アッラーを多く唱念する者にとって、立派な模範であった。」『タフスィール・イブン・カスィール』33:21。

イブン・カスィールは、この節が**偉大な基礎**であると述べています。言葉・行い・状態においてアッラーの使徒 ﷺ に従うことの基礎です。そしてこの節はハンダクの文脈で下されました — そこでこそ使徒の模範が最もはっきりと現れたからです：

ハンダクでの模範	根拠
協議し、良い考えを受け入れる	塹壕の提案（第 2 章）
教友とともに働く	使徒のお腹を土ぼこりが覆った（ブハーリー 4104）
同じ飢えを耐える	お腹に石を巻かれた（ブハーリー 4101）
他の人を優先する	千人が先に食べた（ブハーリー 4102）
祈り、アッラーに委ねる	部族連合への祈り（ブハーリー 2933）
勝利をアッラーに帰する	「ただ独りで部族連合を打ち破られた」（ブハーリー 4114）

この節はまた、その模範に倣う者が誰かも述べています。**アッラーと終末の日を熱望し、アッラーを多く唱念する者**です。教訓：スンナに従うことは外見をまねることだけではなく、来世への希望と絶え間ないズィクルから生まれるものです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ジブリールはまだ武器を置いていない

ムスリムたちは感謝と疲れに満ちて家に帰りました。しかし休む間もなく、天から新しい命令が来ました。アーイシャ رضى الله عنها は伝えています：

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4117 番

حَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا ابْنُ نُمَيْرٍ، عَنْ هِشَامٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ قَالَتْ لَمَّا رَجَعَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مِنَ الْخَنْدَقِ وَوَضَعَ السِّلاَحَ وَاغْتَسَلَ، أَتَاهُ جِبْرِيلُ ـ عَلَيْهِ السَّلاَمُ ـ فَقَالَ قَدْ وَضَعْتَ السِّلاَحَ وَاللَّهِ مَا وَضَعْنَاهُ، فَاخْرُجْ إِلَيْهِمْ. قَالَ فَإِلَى أَيْنَ. قَالَ هَا هُنَا، وَأَشَارَ إِلَى بَنِي قُرَيْظَةَ، فَخَرَجَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم إِلَيْهِمْ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言った：**預言者 ﷺ がハンダクから帰られ、武器を置いて沐浴されると、ジブリールが来て言った。「あなたは武器を置いたのですか。アッラーにかけて、私たち（天使）はまだ置いていません。かれらのもとへ出て行きなさい。」** 預言者 ﷺ は「どこへ」と尋ねられた。ジブリールはクライザ族の方を指して「あちらへ」と言った。そこで預言者 ﷺ はかれらのもとへ出て行かれた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・アビー・シャイバ ← イブン・ヌマイル ← ヒシャーム（・ブン・ウルワ） ← その父ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』マガーズィーの書、預言者 ﷺ の部族連合からの帰還の章、ハディース第 4117 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4117

クルアーンは、条約を裏切ったその部族の結末をこう述べています：「**またかれは、かれら（連合軍）を後援した啓典の民を、それらの砦から追い、その心中に恐怖を投じられた。あなたがたは或る者を殺し、また或る者を捕虜とした。**」『タフスィール・イブン・カスィール』33:26。

クライザ族の包囲、サアド・ブン・ムアーズの裁定、そしてかれの死の物語は、イン・シャー・アッラー、**第 13 巻**で語ります。ここでの教訓：人間が武器を置いたときも、天使たちは**なお備えを解いていなかった**のです — 裏切りに対して正義が打ち立てられるまで、アッラーの御業は終わりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「クライザ族のところ以外でアスルを礼拝してはならない」

イブン・ウマル رضى الله عنهما は、部族連合の日に預言者 ﷺ がこう言われたと伝えています。**「誰もクライザ族のところ以外でアスルを礼拝してはならない。」** 一部の者がまだ途中にいるうちにアスルの時刻が来ました。ある者は「そこに着くまで礼拝しない」と言い、別の者は「いや、礼拝しよう。使徒はそういう意味で言われたのではない」と言いました。このことが預言者 ﷺ に伝えられると、**使徒はどちらの集団も責められませんでした。**（『サヒーフ・ブハーリー』4119）。

第一の集団	第二の集団
使徒の言葉の文字どおりの意味に従った	意図に従った：急いでクライザ族のもとへ
着いてから礼拝した	途中で時間内に礼拝した
責められなかった	責められなかった

学者たちはこのハディースを、根拠と善い意図に基づく**イジュティハード（解釈）の違い**は分裂の原因となるべきではないことの証拠としています。教訓：見解が分かれうる事柄では、私たちは**寛容であるべきです。**アッラーの使徒 ﷺ が両方の集団に寛容であられたように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハンダクの物語の典拠

ハンダクの物語は、信頼度の異なる三種類の典拠を通して私たちに伝わっています。本書は、読者が**何が確実か**、**何が有名なだけか**を知ることができるよう、三つを区別しています：

ハンダクの物語の典拠

クルアーン（6）

- 大風と目に見えぬ軍勢（33:9）
- 目は霞み、心臓は喉もとまで（33:10–11）
- 偽信者の言い訳（33:12–13）
- 立派な模範（33:21）
- 「これは約束されたもの」（33:22）
- アッラーがかれらを撤退させた（33:25）

真正なハディース（9）

- 塹壕掘りと詩
- 大きな岩；ジャービルのもてなし
- ハワーリー：アッ＝ズバイル
- 逃したアスルの礼拝
- 部族連合への祈り
- フザイファの夜
- 東風（サバー）
- 「今度はわれらがかれらを攻める」
- ジブリール：「まだ武器を置いていない」

スィーラ書（4）

- サルマーン・アル＝ファーリスィーの提案
- アリーとアムル・ブン・アブド・ウッド
- ヌアイム・ブン・マスウードの計略
- クライザ族の裏切りの詳細

スィーラ書の話は、関連する章でその位置づけを説明している。

図 4：本書におけるハンダクの物語の典拠の信頼度。

物語	典拠と等級
風と目に見えぬ軍勢；心臓は喉もとまで；偽信者；約束；模範	クルアーン（部族連合章 33:9–26）— 確実

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

物語	典拠と等級
塹壕掘り；土ぼこり；大きな岩；ジャービルのもてなし	『サヒーフ・ブハーリー』2834、4104、4101、4102 — サヒーフ
アッ＝ズバイル；アスルの礼拝；サアドの負傷；祈り；東風	『サヒーフ・ブハーリー』2846、4111、596、4122、2933、4105 — サヒーフ
フザイファの夜	『サヒーフ・ムスリム』1788 — サヒーフ
岩を打ったときの光	『スナン・アン＝ナサーイー』3176 — ハサン
サルマーンと塹壕；アリーとアムル；ヌアイム；クライザ族の詳細	スィーラ書（イブン・イスハーク、アル＝ワーキディー）— 有名、伝承経路はさまざま
戦いの日付	有名な説はヒジュラ暦 5 年シャウワール月；ムーサー・ブン・ウクバは 4 年

スィーラ書の話が必ずしも偽りであるわけではありません。信頼されたスィーラ学者たちが伝えたものです。しかし、それはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではありません**。この電子書籍は、イスラーイーリーヤート（イスラエル伝承）や明らかに偽造された伝承は**含めていません**。

ハンダクについての部族連合章の節

ハンダクの戦いは、クルアーンが最も詳しく語る戦いの一つです。部族連合章の十九の節（33:9–27）が、さまざまな角度からそれを描いています。敵の状況、信仰者の気持ち、偽信者の言い訳、アッラーの使徒 ﷺ の模範、そして戦いの結末です。下の表は、それらの節を本書の各章に対応させています。

節	目次	章
33:9	恩恵を思い起こせ：大風と目に見えぬ軍勢	18
33:10	敵が上から下から来る；目は霞み、心臓は喉もとまで	1、7、8
33:11	信者たちは試みられ、猛烈な動揺に揺さぶられた	8
33:12–13	偽信者：「欺きの約束」；「家が無防備だ」と帰還の許しを願う	9
33:14–17	偽信者の実態：逃げても死からは逃れられない	9
33:18–20	他人を引き止め、戦いの際に物惜しみする者たち	9
33:21	アッラーの使徒 ﷺ は立派な模範	21
33:22	信者たち：「これはアッラーとかれの使徒が約束されたもの」	10
33:23–24	アッラーとの約束を果たした男たち	24
33:25	アッラーは不信者を撤退させ、信者を戦いから守られた	19
33:26–27	敵を助けた啓典の民は砦から追い出された	22；第 13 巻

「信者の中には…人びとがいた」

ハンダクについての節のただ中で、アッラーは忠実な者たちを称えておられます。「信者の中には、アッラーと結んだ約束に忠実であった人びとが（多く）いたのである。或る者はその誓いを果し、また或る者は（なお）待っている。かれらは少しも（その信念を）変えなかった。」（部族連合章 33:23）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、教友たちはこの節がウフドで殉教したかれのおじアナス・ブン・アン＝ナドルと、かれのような人々について下されたと考えていたと述べています（『サヒーフ・ブハーリー』2805；第 10 巻）。この節がハンダクの物語に置かれているのは、試練のときの信仰者の真の姿 — かれらは変わらない — を描いているからです。

ハディース：フザイマのもとで見つかった節

ザイド・ブン・サービト رضى الله عنه は言いました。私たちがムスハフを書き写していたとき、アッラーの使徒 ﷺ が読まれるのを聞いたことのある部族連合章の一節が見つからなかった。私はそれを、フザイマ・ブン・サービト・アル＝アンサーリー — アッラーの使徒 ﷺ がその証言を二人の男の証言と等しくされた人 — のもとでしか見つけられなかった。その節とは「信者の中には、アッラーと結んだ約束に忠実であった人びとがいた」である。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』4784。

このハディースは、クルアーンを集める際の教友たちの慎重さを示しています。その節はすでに暗記され、聞かれていましたが、ザイドはなお証人のついた書かれた写しを探しました。約束に忠実な人々についての節は、信託に忠実な人々によって守られたのです。

教訓

クルアーンはハンダクの歴史を記録するだけではなく、それぞれの集団の心を評価しています。部族連合章を読むとき、私たちは自問できます。人生の試練の中で、私たちは「これはアッラーが約束されたもの」と言う人々とともにいるのか、それとも「私たちの家は無防備だ」と言う人々とともにいるのか、と。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

女性、若者、負傷者

ハンダクの包囲には、塹壕のそばの戦士たちだけでなく、マディーナの全住民が関わりました。女性と子どもたちは町の中の砦（アータム）に置かれ、若者たちは志願し、負傷者はアッラーの使徒 ﷺ の近くで手当てを受けました。

十五歳で認められたイブン・ウマル

ハディース：ハンダクの日のイブン・ウマル

イブン・ウマル رضى الله عنهما は言いました。ウフドの日、十四歳だった私をアッラーの使徒 ﷺ は検分され、許されなかった。その後ハンダクの日、十五歳だった私を検分され、許された。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』2664；『サヒーフ・ムスリム』1868。

ウマル・ブン・アブドゥル＝アズィーズをはじめとする学者たちは、このハディースを、責任の上で十五歳が子どもと大人の境目であることの根拠としています。ウフドで退けられた若者（第 10 巻）が、今やアッラーの使徒 ﷺ とともに塹壕のそばに立っていたのです。

モスクの中のテント

ハディース：サアド・ブン・ムアーズのためのテント

アーイシャ رضى الله عنها は言いました。サアド（・ブン・ムアーズ）はハンダクの日に腕の血管（アル＝アクハル）を負傷した。そこでアッラーの使徒 ﷺ は、近くから見舞えるように、モスクの中にテントを張られた。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』463。

スィーラの注：ルファイダ・アル＝アスラミーヤ

イブン・イスハークは、そのテントはアスラム族のルファイダという女性のもので、彼女は報奨を願って負傷者の手当てをしていたと伝えています。ルファイダの名は『サヒーフ・ブハーリー』には出てきません。スィーラ書の伝承によるものです。

参考：イブン・ヒシャーム『預言者伝』ハンダクの章；Wikipedia「Rufaida Al-Aslamia」。

預言者のモスクは礼拝の場であるだけではなく、手当てと思いやりの場でもありました。アッラーの使徒 ﷺ は、負傷した教友を身近に置き、町の防衛を指揮する忙しさの中でも見舞えるようにされたのです。

砦のサフィーヤ・ビント・アブドゥル＝ムッタリブ

スィーラの注：サフィーヤの勇気

スィーラ書によると、サフィーヤ・ビント・アブドゥル＝ムッタリブ رضي الله عنها ― アッラーの使徒 ﷺ のおばで、アッ＝ズバイルの母 ― は、女性や子どもたちとともにある砦にいました。男たちが塹壕で忙しくしている間、一人のユダヤ教徒の男が偵察のために砦の周りをうろついているのが見えると、サフィーヤは自ら降りて行ってその男を倒し、中にいる女性たちを守りました。

この話は、イブン・イスハークがヒシャーム・ブン・ウルワからその父を経て伝えたものです（ムルサルの伝承経路）。ある版に見られる追加の細部の一部は学者たちから疑問視されています。本書はその要点だけを述べています。

参考：イブン・ヒシャーム『預言者伝』ハンダクの章；Wikipedia「Safiyya bint Abd al-Muttalib」。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

教訓

ハンダクの勝利は社会全体によって築かれました。戦士たちとともに、意気盛んな若者、勇敢な女性、誠実な看護者がいました。誰もが役割を持ち、アッラーのもとで小さな貢献というものはありません。

ハンダクの人物とガタファーン族との交渉

ハンダクの物語には両陣営の多くの人物が関わっています。下の表は、クルアーン、ハディース、スィーラ書（特にイブン・ヒシャーム）に基づいてかれらの役割をまとめたものです。

ムスリム側の人物

人物	ハンダクでの役割	章
サルマーン・アル＝ファーリスィー	塹壕を提案した（スィーラの伝承）	2
サアド・ブン・ムアーズ	アウス族の長；負傷；ガタファーン族への提案を拒んだ	14、25、26
サアド・ブン・ウバーダ	ハズラジュ族の長；交渉でサアド・ブン・ムアーズとともにいた	26
アリー・ブン・アビー・ターリブ	アムル・ブン・アブド・ウッドと対決した（スィーラの伝承）	12
アッ＝ズバイル・ブン・アル＝アウワーム	アッラーの使徒 ﷺ のハワーリー；クライザ族を偵察した	11
フザイファ・ブン・アル＝ヤマーン	寒い夜に敵の陣営へ遣わされた	17
ジャービル・ブン・アブドゥッラー	祝福されたもてなし；ファトフ・モスクでの祈りの伝承者	6、27
ヌアイム・ブン・マスウード	部族連合の同盟を分裂させた（スィーラの伝承）	15
アブドゥッラー・ブン・ウンム・マクトゥーム	マディーナの留守を任された（イブン・ヒシャームによる）	—
アブドゥッラー・ブン・ウマル	十五歳で参加を認められた	25
サフィーヤ・ビント・アブドゥル＝ムッタリブ	女性たちの砦を守った（スィーラの伝承）	25

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

部族連合の指導者

人物	部族と役割	その後
アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ	クライシュ族の長、同盟の総大将	マッカ征服の際にイスラームに入った
ウヤイナ・ブン・ヒスン	ファザーラ族（ガタファーン）の長	後にイスラームに入った
アル＝ハーリス・ブン・アウフ	ムッラ族（ガタファーン）の長	後にイスラームに入った
トゥライハ・ブン・フワイリド	アサド族の長	背教して預言者を自称し、後に悔い改めた
フヤイ・ブン・アフタブ	ナディール族の指導者；同盟の扇動者	第 13 巻
カアブ・ブン・アサド	クライザ族の長；条約を破った	第 13 巻
アムル・ブン・アブド・ウッド	クライシュ族の勇士	塹壕のそばで倒された

最後の列に注目してください。イスラームを滅ぼすために来た指導者の多くが、最後には自らイスラームに入りました。命がある限り、導きの扉は誰に対しても閉ざされていません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マディーナのナツメヤシの収穫の三分の一の提案

スィーラの注：ガタファーン族との交渉

イブン・イスハークによると、包囲がますます厳しくなったとき、アッラーの使徒 ﷺ は、ガタファーン族の二人の指導者ウヤイナ・ブン・ヒスンとアル＝ハーリス・ブン・アウフに、手を引かせるためマディーナのナツメヤシの収穫の三分の一を提案することを検討されました。合意が結ばれる前に、使徒はサアド・ブン・ムアーズとサアド・ブン・ウバーダに相談されました。

二人のサアドは尋ねました。「アッラーの使徒よ、これは私たちが従わなければならないアッラーの命令ですか。それともあなたが望まれることですか。それとも私たちのためになさることですか。」使徒は、かれらの負担を軽くするためだと答えられました。サアド・ブン・ムアーズは言いました。かれらがまだ多神教徒だったころでさえ、ガタファーン族は客として、あるいは買うのでなければ、マディーナのナツメヤシを一粒も食べたことがなかった。アッラーがイスラームによって私たちに栄誉を与えられた今、私たちの財産を差し出すことはない、と。アッラーの使徒 ﷺ はその意見を受け入れられ、提案は進められませんでした。

等級：スィーラ書の伝承（イブン・イスハークがアースィム・ブン・ウマル・ブン・カターダとアッ＝ズフリーから伝える）で、伝承経路はムルサル。有名だが、『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』には見られない。

参考：イブン・ヒシャーム『預言者伝』ハンダクの章；アル＝ムバーラクフーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』。

教訓

この伝承はスィーラ書からのものですが、真正なシューラー（協議）の原則に沿っています。アッラーの使徒 ﷺ は、従わなければならない啓示と、話し合うことのできる個人的な意見とを区別されました。良い指導者は、決定の影響を負う人々の意見に耳を傾けます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

今日のハンダクの戦場

ハンダクの塹壕はとうの昔に埋まり、その地域は今では近代都市マディーナの中心部にあります。それでも、マディーナの歴史書に基づいて、いくつかの地理的な目印を特定することができます。

場所	説明	情報の信頼度
サルウ山	預言者のモスクの北西にある小さな山；ムスリムはそのふもとに陣を張り、山を背にして塹壕に向かった	スィーラ書；位置は特定されている
塹壕の経路	マディーナの開けた北側、東のワーキム溶岩地帯と西のワブラ溶岩地帯の間；他の部分は溶岩地帯、果樹園、家々が守った	スィーラ書；正確な経路は推定
ファトフ・モスク	サルウ山の西斜面；ジャービルのハディースによれば、アッラーの使徒 ﷺ が祈られた場所	ハディース（『アル＝アダブ・アル＝ムフラド』704）
近くの小さなモスク群	サルマーン、アブー・バクル、ウマル、アリー、ファーティマにちなんで名付けられ、あわせて「七つのモスク（アル＝マサージド・アッ＝サブア）」と呼ばれる	地元の伝統；名称について真正な伝承はない
クライザ族の居住地	マディーナの南東、ムスリムの戦列の背後	スィーラ書；第 13 巻

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディース：ファトフ・モスクでの祈り

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がこのモスク ― ファトフ・モスク ― で月曜、火曜、水曜に祈られ、水曜日の二つの礼拝（ズフルとアスル）の間にその祈りが聞き届けられたと述べています。ジャービルは言いました。「重く大切な用事が私に起きるたびに、私はその時刻を選んで祈り、祈りが聞き届けられるのを経験した。」

等級：アル＝アルバーニーによればハサン（『サヒーフ・アル＝アダブ・アル＝ムフラド』545）；一部の学者は伝承者カスィール・ブン・ザイドのために弱いとする ― 『アル＝アダブ・アル＝ムフラド』704；『ムスナド・アフマド』14563。

学者たちは、それら「七つのモスク」での礼拝や訪問を独立した崇拝行為としてスンナとする特別な根拠はないと注意しています。教訓を得るために史跡を訪れることは許されますが、義務の行いや特定の儀式とはされません。参考：Wikipedia「The Seven Mosques」。

教訓

塹壕はもうありませんが、クルアーンとハディースは土や石よりも長くその物語を守っています。史跡は出来事を思い描く助けになりますが、本当の教訓は啓示から来ます。

ハンダクの戦いの年表

有名な日付はヒジュラ暦5年シャウワール月です（ムーサー・ブン・ウクバはヒジュラ暦4年としています）。下の順序はハディースとスィーラ書に基づくおおよそのものです。包囲の期間は約二十夜と推定され、一部の伝承はほぼ一か月としています。

時期	出来事	章
ヒジュラ暦4年ラビーウ・アル＝アウワル月	ナディール族がマディーナからハイバルへ追放された（第11巻）	1
ヒジュラ暦5年初め	フヤイ・ブン・アフタブとナディール族の指導者がクライシュ族とガタファーン族を扇動	1
ヒジュラ暦5年シャウワール月	部族連合来襲の知らせ；協議と塹壕の提案	2
ヒジュラ暦5年シャウワール月	寒さの中で塹壕を掘る；大きな岩とジャービルのもてなし	3–6
ヒジュラ暦5年シャウワール月	部族連合が到着し、マディーナを包囲	7–8
包囲中	クライザ族が条約を破る；アッ＝ズバイルが偵察	11
包囲中	塹壕のそばでの小競り合い；アムル・ブン・アブド・ウッドが倒される	12
包囲中	アスルの礼拝を逃す；サアド・ブン・ムアーズの負傷	13–14
包囲中	進められなかったガタファーン族との交渉（スィーラの伝承）	26
包囲中	ヌアイム・ブン・マスウードの計略	15
月曜〜水曜	アッラーの使徒 ﷺ の部族連合への祈り；水曜日に聞き届けられる	16、27
最後の夜	フザイファの派遣；嵐の風が敵の陣営を襲う	17–18

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事	章
翌朝	部族連合の撤退；「今度はわれらがかれらを攻める」	19–20
同じ日	ジブリールが来る；クライザ族への命令（第 13 巻）	22

教訓

年表は、勝利が一日で来たのではないことを示しています。何週間にもわたる穴掘り、見張り、飢えと寒さ、そして繰り返される祈りの後に来たのです。アッラーの御助けは、努力と忍耐が尽くされた後、その時に来ます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハンダクの戦いについてのよくある質問

1. なぜこの戦いはハンダクとも、アル＝アフザーブ（部族連合）とも呼ばれるのですか。

「ハンダク」は塹壕という意味で、ムスリムの防衛戦略を指します。「アル＝アフザーブ」は同盟した諸集団、つまりクライシュ族、ガタファーン族、その他の部族を意味します。後者の名はクルアーン第 33 章の名でもあります。

2. 両軍の兵力はどれくらいでしたか。

スィーラ書によると、部族連合軍は約一万人、ムスリム軍は約三千人でした。この数字はスィーラでは有名ですが、クルアーンや真正なハディースには述べられていません。

3. 包囲はどれくらい続いたのですか。

スィーラの伝承は分かれています。約二十夜とするものも、ほぼ一か月とするものもあります。クルアーンは期間を述べていません。確かなのは、「心臓は喉もとまで届く」ほど長かったということです（部族連合章 33:10）。

4. 犠牲者は何人でしたか。

イブン・イスハークによると、後に傷がもとで亡くなったサアド・ブン・ムアーズを含め、六人のムスリムが殉教し、アムル・ブン・アブド・ウッドを含む三人の多神教徒が死にました。この数字はスィーラ書によるものです。犠牲者が少なかったことは、ハンダクが剣の戦いではなく忍耐の戦いであったことを示しています。

5. ハンダクの日に四つの礼拝を逃したというのは本当ですか。

『サヒーフ・ブハーリー』で真正とされているのは、日没までアスルの礼拝を逃したことです（『サヒーフ・ブハーリー』596；第 13 章）。四つの礼拝を逃したという伝承は『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』179 にあり、アブー・ウバイダがその

父イブン・マスウードから伝えたものですが、アブー・ウバイダは父から直接聞いていないため、その伝承経路は**途切れて（ムンカティウ）**います。一部の学者は、それぞれ別の日に起きたとして両者を調和させています。

6. 今日、忙しさのために礼拝を遅らせてもよいのですか。

いいえ。学者たちは、ハンダクの出来事は異常な戦時の状況で起きたものであり、多くの学者によれば恐怖時の礼拝の方法が完全に定められる前のことだったと説明しています。その後アッラーは、歩きながらでも乗り物の上でも、能力に応じてどんな状況でも礼拝するよう命じられました（雌牛章 2:239；第 11 巻）。礼拝を逃したことをアッラーの使徒 ﷺ が悲しまれたことは、その地位がいかに大きいかを示しています。

7. アッラーの使徒 ﷺ が岩を打たれたときの光の話は本当ですか。

大きな岩が砂になった話は『サヒーフ・ブハーリー』4101 にあります。光と、シャーム、ペルシャ、イエメンの征服の吉報についての追加は、ハサンと評価される『スナン・アン＝ナサーイー』3176 にあります（第 5 章）。その知らせは、使徒の後のカリフたちの時代に本当に実現しました。

8. ハンダクでは天使も戦ったのですか。

クルアーンは「目に見えぬ軍勢」と述べています（部族連合章 33:9）。イブン・カスィールは、それは敵を揺さぶり、その心に恐怖を投げ込んだ天使たちであると説明しています。バドルのように、ハンダクで天使が直接戦ったと述べる真正な伝承はありません。

9. アッラーの使徒 ﷺ は本当にマディーナのナツメヤシの三分の一をガタファーン族に提案されたのですか。

この話はムルサルの伝承経路によるスィーラ書の伝承です（第 26 章）。その伝承によれば、提案は検討されただけで結ばれませんでした。サアド・ブン・ムアーズと

サアド・ブン・ウバーダがそれに反対し、アッラーの使徒 ﷺ がかれらの意見を受け入れられたからです。

10. マディーナの「七つのモスク」を訪れることはスンナですか。

それらのモスクへの訪問を独立した崇拝行為とする特別な根拠はありません。ファトフ・モスクでのアッラーの使徒 ﷺ の祈りについてのジャービルのハディース（第 27 章）は、アル＝アルバーニーがハサンと評価し、他の学者は見解を異にしています。それは祈りの時刻に関するもので、場所を訪れる義務に関するものではありません。教訓を得るために訪れることは許されます。

11. なぜクライザ族は別の巻で扱われるのですか。

クライザ族の裏切り、その包囲、サアド・ブン・ムアーズの裁定、そしてサアドの死は、独自の規定を含む長い物語だからです。イン・シャー・アッラー、部族連合章 33:26–27 と真正なハディースを参照しながら、第 13 巻で語ります。

12. なぜハンダクはスィーラの転換点とされるのですか。

ハンダクの後、アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「今度はわれらがかれらを攻める。かれらがわれらを攻めることはない」（『サヒーフ・ブハーリー』4109；第 20 章）。クライシュ族は二度とマディーナを攻めませんでした。その後フダイビヤの和約（第 15 巻）があり、続いてマッカ征服がありました。

教訓

これらの質問は、クルアーンと真正なハディースから確実なことと、スィーラ書で有名なこととを区別することの大切さを示しています。そうすることで、私たちは付け加えたり減らしたりせず、確信と誠実さをもってハンダクの教訓を受け取るのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

教訓と結び

ハンダクの戦いは大きな剣の戦いではなく、**忍耐の戦い**でした。ムスリムたちが勝ったのは数や武器のためではなく、団結し、努力し、祈り、アッラーに委ねたからです — そしてアッラーご自身が敵を打ち破られたのです。

教訓	ハンダクから学ぶこと
協議と良い考え	塹壕の提案が受け入れられた
民とともにいる指導者	アッラーの使徒 ﷺ は掘り、土ぼこりにまみれ、飢えられた
分かち合いの祝福	ジャービルのもてなしが千人を満たした
試練が心を分ける	偽信者（33:12）と信仰者（33:22）
礼拝の地位	逃したアスルの礼拝への悲しみ
従順は容易さをもたらす	寒さの中で暖かかったフザイファ
目に見えぬアッラーの軍勢	風と天使（33:9）
勝利はアッラーのもの	「ただ独りで部族連合を打ち破られた」

私たちの生活の中のハンダク

私たちも時に、四方から — 「上からまた下から」 — 問題に囲まれることがあります。ハンダクは私たちに**自分自身の塹壕を掘る**ことを教えています。賢明に備え、善い人々と団結し、寒さと飢えの中で耐え、多く祈り — そしてその結果をアッラーに委ねることです。

イン・シャー・アッラー、**預言者伝（スィーラ）**シリーズは**第 13 巻**へと続きます — クライザ族とハンダクの後の出来事です。アッラーが最もよくご存知です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』（雌牛章 2:214、238；部族連合章 33:9–27）。https://tafsir.app/ibn-katheer/33/9

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』596、597、1797、2834、2846、2933、3030、3743、3803、4101、4102、4104、4105、4106、4109、4111、4114、4117、4119、4122、5416、6452。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1731、1788、2605。https://sunnah.com/muslim

『スナン・アン＝ナサーイー』3176。https://sunnah.com/nasai:3176

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝』（イブン・イスハークからの伝承）— ハンダクの戦いの章。

イブン・サアド『タバカート』；アル＝ワーキディー『マガーズィー』。

サフィー・アッ＝ラフマーン・アル＝ムバーラクフーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— 部族連合の戦いの章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注釈）』——遠征の書。

Wikipedia「Battle of the Trench」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_the_Trench

Wikipedia「Salman the Persian」。https://en.wikipedia.org/wiki/Salman_the_Persian

Wikipedia「Nu’aym ibn Mas’ud」。https://en.wikipedia.org/wiki/Nu%27aym_ibn_Mas%27ud

Wikipedia「Sa’d ibn Mu’adh」。https://en.wikipedia.org/wiki/Sa%27d_ibn_Mu%27adh

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』4784（部族連合章 33:23 の節がフザイマのもとで見つかった）。https://sunnah.com/bukhari:4784

『サヒーフ・ブハーリー』2805（アナス・ブン・アン＝ナドルと部族連合章 33:23）。https://sunnah.com/bukhari:2805

『サヒーフ・ブハーリー』2664；『サヒーフ・ムスリム』1868（十五歳のイブン・ウマル）。https://sunnah.com/bukhari:2664

『サヒーフ・ブハーリー』463（モスクの中のサアドのテント）。https://sunnah.com/bukhari:463

『アル＝アダブ・アル＝ムフラド』704（ファトフ・モスクでの祈り）。https://sunnah.com/adab:704

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』179（四つの礼拝の伝承；伝承経路は途切れている）。https://sunnah.com/tirmidhi:179

Wikipedia「The Seven Mosques」。https://en.wikipedia.org/wiki/The_Seven_Mosques

Wikipedia「Safiyya bint Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Safiyya_bint_Abd_al-Muttalib

Wikipedia「Rufaida Al-Aslamia」。https://en.wikipedia.org/wiki/Rufaida_Al-Aslamia

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ア

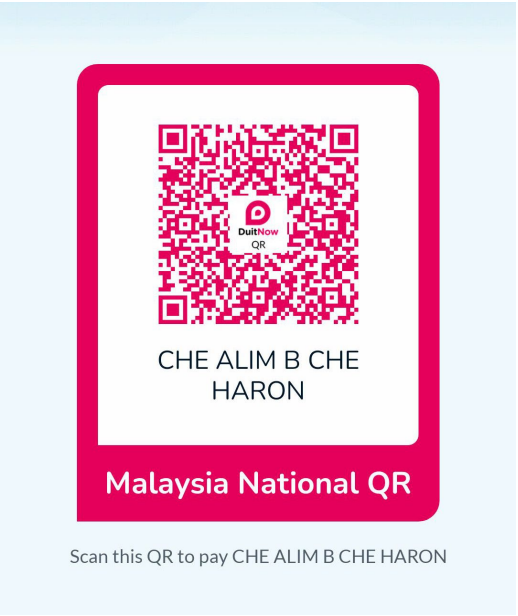
ル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。



海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience